

# 琉球大学学術リポジトリ

《国語科》新たな課題を見いだし、問い続ける生徒の育成（2年次）：  
国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点を通して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属中学校 公開日: 2020-06-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 真, 新垣, 元子, 玉城, 晃, 武藤, 清吾, 萩野, 敦子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/45987">http://hdl.handle.net/20.500.12000/45987</a>

## 新たな課題を見だし、問い続ける生徒の育成（2年次） —国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点を通して—

新垣真\* 新垣元子\* 玉城晃\* 武藤清吾\*\* 萩野敦子\*\*

\*琉球大学教育学部附属中学校 \*\*琉球大学教育学部

### I 主題設定の理由

#### 1 社会的な背景から

2017年3月に、新しい学習指導要領が告示された。

新しい学習指導要領の改訂の背景について、中央教育審議会の答申（2016年12月）では、現在の子供たちが社会人となる2030年を念頭に置き、「子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要」<sup>(1)</sup>と述べている。

そこで、各教科の指導においては、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）の実現に向けた授業改善が求められている。

国語科では、「言葉による見方・考え方」をふまえた言語活動をより充実させることで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すことが求められている。

#### 2 これまでの研究から

昨年度から、本校国語科は、研究テーマ「新たな課題を見だし、問い続ける生徒の育成」を掲げている。

1年次の研究の成果と課題は、次の通りである。

##### (1) 成果

- ・「パフォーマンス課題」として課題（問い）の工夫を行い、ゴールを明示し目的を明確にすることで、生徒が主体的に授業に参加し、課題を解決しようとする姿が見られた。
- ・「モニタリング」を行うことによって、生徒自身が今まで見えていなかった自分の姿を俯瞰的に見るができるようになり、表情も含めた自分や友達の発言をより批判的に捉えることにつながった。
- ・「リフレクションシート」の活用により、生徒の思考が、どこで変容したのか自己内省をすることができ、思考の可視化（みとり）につながった。

##### (2) 課題と改善点

- ・生徒の疑問から「問い」につながるパフォーマンス課題と評価の開発について、引き続き研究を深める必要がある。
- ・「モニタリング」を通して、どのように自分が変容したかという自己評価の押さえが不十分であった。  
1年次の研究では、アクティブ・ラーニングの視点を通して授業改善の成果が見られた。一方で、評価をどのように改善すればいいのかという課題も残った。

#### 3 生徒の実態から

沖縄県教育委員会「学力向上推進プロジェクト」（2016年12月）によると、平成28年度全国学力・学習状況調査結果から、本県の中学校の生徒の実態として、「学力については向上傾向にあるものの、授業における基本事項については課題が見られる」<sup>(2)</sup>ことが分かった。また、「学校質問紙から、思考を深める発問、話し合う活動、振り返る活動の項目が、50%以下になっており、課題といえる」<sup>(2)</sup>と考察している。

以上の実態から、沖縄県教育委員会は、目指す授業像を「他者と関わりながら、課題の解決に向かい『問い』が生まれる授業」<sup>(2)</sup>と設定し、教師間で共有しながら授業改善の取り組みを共通実践することとした。

この目指す授業像は、本校国語科の研究テーマと類似する部分がある。本県の学力向上推進プロジェクトと関連しながら研究を進めることは、本県の生徒の確かな学力の向上に寄与すると考える。

### II 本研究の目的

本研究の目的は、国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点について研究、実践することを通して、新たな課題を見だし、問い続ける生徒を育成することにある。

### Ⅲ 目指す生徒像

- 1 「見通す・伝え合う・振り返る」活動を通して、多面的・多角的に考え、問いを持つことができる生徒。
- 2 主体的に学習に参加し、他者と吟味して考え、新たな課題を見いだすことができる生徒。

### Ⅳ 研究内容

#### 1 新たな課題を見だし、問い続ける生徒とは

「新たな課題を見だし、問い続ける生徒」とは、学習のまとめにおいて、分かったことなどを整理するだけではなく、習得した知識や技能を活用して、新たな解決したい課題を見いだすことができる生徒である。つまり、考え続けることをやめない生徒だといえる。

これからの変化の激しい社会を生き抜くには、どんな状況にも対応できる柔軟な精神力と思考力が必要となる。子供たちが将来問題に直面したときに、どうしてうまくいかないのか、どうして、その活動やステップが必要なのかなどを自問し、解決し、さらに、そこから新しい課題やアイデアを生成する力を中学校では育成しなければならないと考える。

そのような能力を育成するためには、深く考える活動や経験を授業者が授業の中で意図的に仕組むことが必要であり、生徒が意欲的にやってみたいと思う「課題設定」や「発問」の工夫が重要となる。そのために、単元の本質的な問いが何かを吟味し、本質的な問いから、生徒自らが学習せざるを得ないような課題解決を目指す言語活動を、単元を通して設定し、実践する。課題を解決する過程をくり返すことで、問い続ける生徒の育成につながると考える。

では、生徒が問い続ける「問い」とは何か。野矢(2017)は、問いの形を「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」と三つの問いの形に分けている<sup>(3)</sup>。

情報の問いとは、さらなる情報を引き出す質問である。情報の問いは、より詳しく知りたいという質問と関連する話題をさらに知りたい質問に分けられる。

意味の問いとは、相手の言ったことの意味がよくわからないとき、それを尋ねる。それは、もっと分かりたいために具体的な説明を求めることも含まれる。

論証の問いとは、納得するために、「なぜ、そう考えるのか」と根拠を求める問いである。この「論証の問い」が、生徒から自ずと生まれ続けるような指導の工夫を国語科では行うことが必要であると考えられる。

#### 2 国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点とは

国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点とは、単元を通して課題解決を目指す言語活動のさらなる充実・深化であると考えられる。

言語活動の充実は、現行教育課程の中核に位置する。これまでも各学校では、言語活動の充実の取り組みがなされてきた。「論点整理」(2015年8月)では、「その成果を受け継ぎ、引き続き充実を図ることが重要」<sup>(4)</sup>としている。

言語活動は、教育課程が展開される中で、各教科の目標の実現のために手だてとして用いられる学習活動である。ただし、言語活動を行うには、生徒達に相応の言語能力が培われていないと行えない。高木ら(2016)は、「ましてや『アクティブ・ラーニング』という、今まで以上に豊かな学習活動を展開することが求められている次期教育課程においては、さらに言語能力が求められる。したがって、『言語能力の育成』という国語科の役割はますます重要となる」<sup>(5)</sup>と述べている。

#### 3 具体的な取り組み

##### (1) アクティブ・ラーニングの視点を通じたカリキュラムマネジメント

カリキュラムマネジメントについて、田村(2016)は、「カリキュラムとは、教育計画だけを指すのではなく、問題を解決するための手立てを具体的に計画し、実践し、その評価を行い、よりよいものに改善していく。その一連の作業をカリキュラムマネジメントと言う」<sup>(6)</sup>としている。

国語科では、単元を通して課題解決を目指す言語活動を設定し、それを通して指導事項を指導してきた。つまり、単元のゴール(目指す姿)に向かって生徒自身の力で解決できる課題を設定・実施・評価し、その一連の活動を他の単元においても繰り返し行うことで、言語活動の充実を図ってきた。

例えば、『平家物語』を映画化するなら、〇〇の場面で、どんな演技指示書を出す? という単元を通して課題解決をめざす言語活動を設定する。このような課題を解決することで、生徒は、身に付けたい力を身に付けられるようになる。そうすることで、次の課題でも、その身に付けた力を活用し、自ら課題を解決していくことができるようになると思われる。

また、西岡(2016)は、「アクティブ・ラーニングを取り入れるにあたっては、領域ごとの目標を明確に設定し、それらの目標を適切に対応する評価方法を組み合わせつつ用いることが重要である」<sup>(7)</sup>と述べている。

単元の指導計画に基づいて、毎時間の授業で目標や学習の手順、学習課題などを板書やプリントで生徒に示すことで、学習の見通しと、単元のゴールを生徒と共有することができる。これにより生徒は、課題に対して、より具体的なイメージをもつことができ、主体的に学習に取り組むことができるようになる。と考える。

アクティブ・ラーニングの視点を通したカリキュラムマネジメントを行うということは、国語科において、さらなる言語活動の充実と、付けたい力を明確にした単元計画及び実践、また、みとりを行い、改善しながら目指す生徒像を実現していくことだと考える。

## (2) アクティブ・ラーニングの視点を通した評価

西岡(2016)は、「アクティブ・ラーニングを取り入れるにあたっては、知的問題解決を求めるような評価方法を明確にしつつ、単元設計に取り組むことによつて、『主体的・対話的で深い学び』の実現につながる」とし、そのために「思考力・表現力・判断力を育成するパフォーマンス評価が有効である」<sup>(8)</sup>と述べている。

また、「論点整理」(2015年8月)でも、「バランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価を取り入れ、ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行っていくことが必要である」<sup>(9)</sup>とある。

パフォーマンス評価とは、知識やスキルを状況において使いこなすことを求めるような評価方法である。具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する課題のことである。

そこで、どのような課題をどのような状況で行ったら、生徒はどのようなパフォーマンスを示したのかを検証したい。また、具体例(生徒のワークシート記述や作品)、実施した授業実践、評価方法、評価指標(単元の指導計画、パフォーマンス課題、ルーブリック等)を研究し、具体的な評価について探究したい。

## ① 「パフォーマンス課題と評価」の実践

国語科においてパフォーマンスを評価する課題を設定するにあたっては、西岡ら(2016)は、『何を』『どのように』話したり・聞いたり・書いたり・読んだりするのかを、問う必要がある<sup>(10)</sup>と述べている。例えば、小説から主人公の心情を読み取るだけの授業は、内容主義の指導に陥る危険性があり、話す型を学習するだけの授業は、形式主義の指導となる危険性がある。

これらの問題を回避するには、国語科の領域ごとの「本質的な問い」を明らかにし、生徒が取り組みたくなり、実力が発揮できる課題を設定することが重要となる。そこで本校国語科は、領域ごとに、どのようなパフォーマンス課題が設定できるかを試案した(VII資料表5「パフォーマンス課題例」を参照)。

このようなパフォーマンス課題に対して、思考力・表現力・判断力を育成するパフォーマンス評価を単元の毎時間に実施することは現実的に難しいと考える。

そこで、パフォーマンス評価は、単元の第〇時に、〇〇の評価方法を用いて評価するなどを記した単元の指導計画が重要となる。「思考・判断・表現」については、パフォーマンス課題で評価し、「知識・技能」は、筆記テストや実技テストで評価するなど、単元の指導計画に基づいた適切な方法で評価することがアクティブ・ラーニングの視点を通した実践につながると考える。

## ② 「ルーブリック」(評価基準表)の共有

生徒が「確かな学力」を確実に身に付けていくためには、今の自分がどのように学んでいるのかを振り返りながら、次の学習に向かう必要がある。そこで、授業者だけがルーブリック(評価基準表)を持つのではなく、学習者にもルーブリック(VII資料表6「ルーブリック例」を参照)を共有させたい。

これにより、自己評価を促すと同時に相互評価を行うことが可能になる。ルーブリックを通して生徒は自らの学びの立ち位置を見定め、「言葉による見方・考え方」をより働かせることができるようになる。と考える。

以上のように、「パフォーマンス課題と評価」、「ルーブリック」の共有を取り入れることにより、より効果的なアクティブ・ラーニングの視点を通した実践になると考える。そして、これらの実践は、新たな問いを見つけ、課題に対して体得した知識や技能を活用し、克服しようとする生徒の育成につながると考える。

## V 実践事例

### 1 第1学年

#### (1) 単元名「6 作品を読み解く」

学習材名 「少年の日の思い出」(東京書籍)

#### (2) 目標

- ・作中の表現描写から登場人物の人物像を読み取る
- ・描写から登場人物の心情の変化を読み取る
- ・終末の場面の意味について自分なりに解釈し考える

#### (3) 本実践の目的

文学的文章について、小学校高学年では、「登場人物の相互関係を基に、人物像や心情を想像豊かに読むこと」が指導されている。中学校学習指導要領では、「C 読むこと」(1)イ「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写を基に捉えること」が指導事項として挙げられていることから、本単元では「語義や描写に注目して登場人物の心情や作品を読み深める力」を身に付けさせたい。

また、知識構成型ジグソー法を通じて文学的文章を読み深める視点を得ることで、学習者が主体的に根拠に基づいて読み深める力を育成したい。

#### (4) 実践内容

本単元に位置づけた言語活動は、「C 読むこと」

(2)イ「小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動」である。

登場人物の「僕」の人物像や心情を読み取ったうえで、終末の場面が作品の見所であることを説明するための企画書を完成させるパフォーマンス課題を単元の最終時に位置づけた。

あなたはCM作成会社の社員です。今度「少年の日の思い出」の映画化が決定し、CM作成班の班長に任命されました。

4つのコマ割りのうち3つは決まったのですが、「僕」が「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった」場面をCMの最後に採用したいと思います。企画部長は「僕」がチョウを盗む場面をCMの最後に採用しようとしています。最後の場面がこの作品の見所であることを、企画部長に提案するための企画書を完成させなさい。

学習の第1次でパフォーマンス課題とルーブリック(評価基準表)を共有し、学習の見通しをもった(VII 資料図5「リフレクションシートの実際」参照)。「学びにつながる問い」と称し、作品について疑問があるか尋ねたところ、多くの生徒が「なぜ『僕』は最後にチョウを潰したのか?」、「エーミールが罵らなかつたのはなぜか?」、なかには「なぜ語り手が変化したのか?」という作品の構成に疑問を持つ生徒もいた。

第2次では描写に注目して登場人物の人物像や心情を読み取る学習を設定した。心情については、知識構成型ジグソー法により、クジャクヤママユに期待を寄せていた「僕」が、盗みを犯してエーミールに断罪されるまでの心情の変化やその理由について、根拠を明らかにして「見える化」する学習活動を取り入れた。物語の道筋を確認しながら、「僕」の心情の変化について描写を基に読み取り、協力しながら読み進める姿が見られた。また、作品の構成を明らかにするために、「客」と「私」の場面があることの意義について考える場を設定した。生徒は「回想の場面の前提として示している」、「物語とのつながりをもたせるため」と回想場面へ移行するための伏線であることを理解している様子がうかがえた。また、作品を「客」の回想で終えることにどのような効果があるか考える場面を設けたところ、「読み手に想像させるため」、「回想の場面をまとめたら答えが1つになってしまう」と、回想の場面で終えることで、物語の解釈を読み手に委ねる効果があることを説明する生徒の姿も見られた。

第3次では、再び知識構成型ジグソー法によって、『『チョウを指で押し潰すこと』は『僕』にとってどのような意味があるのか』をメインの問いとして、エキスパートの視点を生徒に提案させる場を設けた。生徒は『僕』の『チョウ』に対する気持ちを考える、「一つ一つ、指で、粉々にという『僕』の行動の意味を考える」、「まとめて捨ててしまっただけなのか」「なぜわざわざ『闇の中』でチョウを潰したのか」といったエキスパートの視点を考えることができた。メインの課題を解決するために、A『僕』にとっての『チョウ』とは?」、B『罵りさえしなかつた』という表現について、C「なぜ一度に捨ててしまわないのか」をエキスパート資料として選定し、知識構成型ジグソー法を取り入れ、終末の場面の「僕」にとっての意味を、描写に根拠を求めて考える時間を設けた。

表1 単元の指導計画

次	時	評価規準	具体的な学習活動
1	1 2	<p>関 パフォーマンス課題を解決するために、終末の場面に注目して読み、自分なりの疑問をもって学習に取り組んでいる。</p> <p>言 心情を表す語句や情景描写の言葉の意味を文脈に応じて理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス課題とルーブリック(評価基準)をリフレクションシートに提示し、学習の見直しをもつ。</li> <li>・全文を通読し初発の感想や疑問を書く。</li> </ul>
2	3 4 5	<p>読 作中の登場人物に関する描写からその人物像を適切に捉えている。</p> <p>読 回想場面の「僕」の心情の変化やその理由について描写を基に捉えている。</p> <p>読 作品の構成に注目し、回想場面で終えることの効果を解釈して説明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「僕」と「エーミール」の人物像を考える。</li> <li>・「僕」の心情の変化や理由について、知識構成型ジグソー法により根拠を明らかにして「見える化」する。</li> <li>・作品の終末が回想の場面であることの効果を考える。</li> </ul>
3	6 7	<p>読 「僕」が「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった」場面の重要性を理解している。</p> <p>読 終末の場面を語義や描写に注目して読み、その意味について説明する文章を書いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の終末場面の重要性について、知識構成型ジグソー法により、エキスパートの視点から根拠を明らかにして話し合う。</li> <li>・パフォーマンス課題に取り組む。</li> <li>・学習をふり返る。</li> </ul>

(5) 実践の考察

① 生徒の学習の評価(授業前後の変容・比較)

第3次のパフォーマンス課題に取り組む前の生徒Aの記述の実際を以下に示す。

このチョウを見るとエーミールとの思い出もよみがえってきて、忘れたかったからだと思う。全部一気に捨てなかったのはやっぱりチョウが大好きだったから、1つ1つお別れをしていったと思いました。それから、粉々にするということは、取り返しのつかないことだから、償いも少しはあると思いました。

表現のつたなさはあるものの、この記述からは終末の場面にエーミールに対する贖罪、チョウにまつわる思い出との訣別、出来事を忘れたと思う「僕」の心情を読み取ることができているため、【おおむね満足できる】と評価することができよう。

生徒Aのパフォーマンス課題の記述の一部を示す。

終末のシーンには、「僕」のチョウに対する思いがたくさんつまっていると思います。〈中略〉「僕は悪漢だということに決まってしまう」、悔しさ、悲しさでチョウに申し訳なくなり、大好きだけど自分がもっていても幸せにはできないと思って、1つ1つ最後のお別れとけじめで、1つ1つ手で潰したと思うからです(けじめは自分の手で)。また、暗闇の中で潰すのには理由があって、僕の心情が悲しい、気持ちが暗いから「闇」をわざとだして、僕の心情を読み手に伝えたかったんだと思います。

この記述からは、「闇の中で」という描写を学習者が主体的に解釈し、登場人物の心情を考えている様子うかがえることから【満足出来る】と評価することができる。これらの記述に加えて、「その前に」、「とび色の箱」、「寝台の上で」、「闇の中で」等、終末の文

以外の描写を取り上げ、「僕」が「チョウを見るのものはばかれる」ことや「自分だけの空間で作業をすること」の意味について読み手が主体的に解釈して記述してあるものを【満足できる】と評価できよう。

② 授業デザインの振り返り

本単元の実践にあたって、文学的な文章を読む際、描写を基に登場人物の心情や場面の展開の理解に役立てて読み深めるために、単元末にパフォーマンス課題を設定した。パフォーマンス課題を解決するために、物語を回想の場面で終える効果や終末の場面を読み取るためのエキスパートの視点を考えることによって、終末の場面に対する自分の考えを形成しながら作品を読み深めつつ学習を進めることができた。

③ 実践を踏まえた授業の改善点

見直しをもって学習に臨むことによって、生徒は終末の場面の「僕」の心情や行動について語義や描写に注目して読み取ることができた一方で、「僕」にとつての「償い」や「別れ」に考えを集約し説明する生徒の姿も見られた。ジグソー学習においては「贖罪」、「反省」、「後悔」、「自責」、「訣別」というキーワードにつながる考えの広がりが見られたが、それらを活用し考えをまとめることに課題が見られたことから、多面的、多角的な読み方ができるようなクロストーク(共有)の工夫が必要であったと考える。

また、ジグソー学習で学んだ視点をふり返る手立ての工夫や働きかけによって、パフォーマンス課題で多面的、多角的な読みを生かした記述を支えることができると考える。

## 2 第2学年

(1) 単元名 くいぬうた んなし ちちやびら

(恋の歌をみんなで聴きましょう)

教材名 「琉歌を読んでリライトしよう」

(2) 目標

- ・歌に込められた思いや、作者のものの見方や考え方に関心を持ち、対話を通して自分の考えを深める
- ・情景や心情を表す語句や表現の工夫に注意して、琉歌を読み味わう
- ・読み取ったことを自分の言葉でリライト（再表現）することで、作者の思いを想像する

(3) 本実践の目的

本実践は、「C 読むこと」(1)イ「文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、などを考え、内容の理解に役立てる」力、加えて、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」ア(イ)「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像する」力を育成することを目的としている。本時において知識構成型ジグソー法を取り入れることで、生徒自ら主体的にことばを読み、対話することで新たな視点に気づき、想像を膨らませ、自分の読みを深めさせたい。

(4) 実践内容

本単元は、琉歌「流れゆる水に桜花うきてい色美らさあてどすくてみちやる」(吉屋チルー)の解釈をもとにショートストーリー（以下SS）を書くという表現活動を行う。その際短歌や琉歌の情景について想像を膨らませる手立てとして、知識構成型ジグソー法を取り入れる。その対話の中で他者と関わり、意見交換することを通して、新たな視点に気づき、個に戻ったときに自分なりの考えを深めることにつながると思われる。

また、思考する力や想像する力を高めるために、パフォーマンス課題を次のように設定した。

今年度も、滋賀大附属中学校の生徒の皆さんが修学旅行で琉大附属中を訪れ、交流会をすることになりました。皆さんはその際に、滋賀大附属中の生徒に、沖縄の伝統文化である、「琉歌」を紹介しなければなりません。県外の中学生に、「琉歌」とはどんなものか分かりやすく説明し、おススメの「琉歌」を紹介するリーフレットを作りなさい。

第1時では、生徒にパフォーマンス課題を提示し、単元の見直しを持たせた。その後、前期に学習した短歌の鑑賞文を見直し、登場人物や状況設定などの観点に沿って短歌のイメージを膨らませる活動を行った。

第2時では、200字SSを創作する活動を行った。前時に書く材料は出しているため、思い思いに想像し言葉からイメージを膨らませる活動を楽しんでいた。その後、短歌と琉歌の違いを考え、「ていんさぐぬ花」や「組踊」など、現在にも琉歌のリズム(八八八六)が歌い継がれていることを学んだ。

第3時では、知識構成型ジグソー法を取り入れ、ことばに込められた作者の思いを読み取る活動を行った。エキスパート資料を、A「作者」B「桜花」C「琉歌の構造」の3つの視点で考えさせ、ジグソー課題「作者はこの歌にどんな思いを込めたのだろうか」に取り組み、ことばに込められた作者の思いを読み取った。

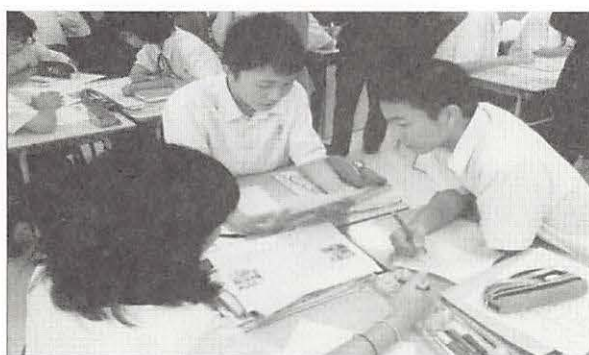
第4時では、前時で読み取ったことをもとに200字SSを書くことで個々の読みを深め、想像を広げていた。

第5時から、県外の中学生に琉歌について説明し、おすすめの琉歌を紹介するというパフォーマンス課題に取り組むため、3つの琉歌から好きな歌を選び、200字SSを書く活動を行った。3回目の創作ということもあり、スムーズに書き進めることができた。

第6時では、創作した200字SSを班で紹介し合い、相互評価した。またふり返りとして、「言葉から想像する力がついた。作者に共感できた」とあった。



エキスパート活動



ジグソー活動 (各エキスパート説明)

図1 本時(第3時)の学習の流れ

表2 単元の指導計画

時	評価規準	具体的な学習活動
1	鑑賞文の視点をもとに、想像を膨らませて書いている。	・学習のねらいや見通しをつかむ。 ・短歌の鑑賞文を見直し、観点に沿ってイメージを作る。
2	伝統的な言語文化を楽しんで音読し、言葉の特徴を理解して、琉歌を読んでいる。	・前時のイメージ書きから、200字ショートストーリーを書く。 ・琉歌について触れる。
3	内容や表現の仕方、背景などに注意して読み、内容理解に役立っている。	・吉屋チルー「流れゆる水に～」の琉歌を読み解く。 問 作者が伝えたい思いは何だろう？
4	内容や表現の仕方に注意して読んでいる。	・前時の読み取りをもとに、200字ショートストーリーを書く。
5	琉歌を楽しんで読み、言葉の特徴やきまりなどに注意して書いている。	・三首の琉歌から一つ選び鑑賞し、200字ショートストーリーを書く。
6	他者の書いたショートストーリーの良い点を、自分の作品に活かしている。	・自分の書いたショートストーリーを紹介する交流会を行い、「琉歌」の魅力について考える。

(5) 実践の考察

① 生徒の学習の評価（授業前後の変容・比較）

本時の問いに対する授業前の記述と、ジグソー学習後の記述の変容を比較する。

本時では、「琉歌」に込められた作者の思いを、観点を持って想像することを目標とし、作者「吉屋チルー」のものの見方や考え方を想像していると判断できるものを、【おおむね満足できる】状況（B）と設定した。

生徒Sは、学習前の記述において、「この琉歌はどんな意味を持った歌だと思いますか」という問いに対して、「美しいものには目を奪われやすい。それを思わずすくってしまった歌だと思う。」と記述しており、見えている情景のみをとらえたものであった。

しかし、第3時の知識構成型ジグソー法を取り入れた学習後は、『流れゆく桜』は『吉屋チルー』自身を表し、『川の流れ』は、『運命の流れ』を表している。つまり、吉屋チルーは、流れていく桜を見て、運命の流れに逆らえない自分を重ね、そんな自分を誰かがひろって（すくって）転生させて欲しい。という思いを込めてこの琉歌を詠んだのでないか。」という記述になっており、「桜花」「川」「すくう」ということばに着目し、「吉屋チルー」の立場に置き換えて想像が広がっていることが読み取れる記述となっている。生徒Sについては、評価規準に基づいて、【おおむね満足できる】状

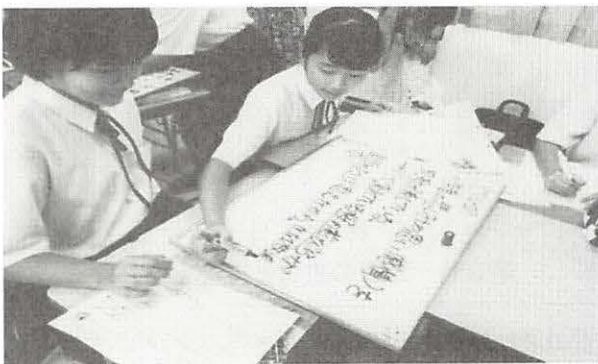
況（B）の評価ができると考える。

② 授業デザインの振り返り

本単元では、「県外の中学生に琉歌を説明する」というパフォーマンス課題を設定し、「琉歌」の読み取りを行った。ジグソー学習を通して「琉歌」を読み取る中で、クロストークでの友達の意見に共感したり新しい発見があったりなど、読み取るコツをつかんだ様子であった。また、「琉歌」の読み取りを通して、沖縄の古典文学を身近に感じることで、日常生活で耳にすることが希薄になっている「方言」に触れ、沖縄の伝統的な言語文化に親しみを持つことができたと考える。また、パフォーマンス課題に対しての評価物として、学びが見とれる形として、一枚リーフレットにした（Ⅶ資料図6「パフォーマンス課題の実際」を参照）。

③ 実践を踏まえた授業の改善点

第3時に行ったジグソー学習の際のエキスパートそれぞれ3つの資料を、ジグソー活動においてうまく組み合わせることができず、Bの「桜花」を他のエキスパート資料と関連づけることが難しかったようであった。メインの問いの「作者の思いを読み取ろう」では、問いが抽象的になってしまい、生徒がどう読めばいいのか分からず戸惑っていた。具体的な問いや発問を工夫し、提示する必要がある。



ジグソー活動（メイン課題）



クロストーク活動



### 3 第3学年(その1)

#### (1) 単元名

文章や資料を読んで、人間社会の在り方を考えよう  
 ー反論技法を取り入れた意見文を書くー  
 学習材名 論説文 中静透「絶滅の意味」(東京書籍)

#### (2) 目標

- ・論の進め方に着目して、筆者の主張を捉える
- ・人間社会と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ
- ・自らの主張の説得力を高めながら、社会に向けて自分の考えを発信する

#### (3) 本実践の目的

本単元では、学習材を通して、生徒が筆者の主張を正確に読み取る力を身に付けさせたい。また、知識構成型ジグソー法を通して資料を読んで話し合い、人間社会と自然との関わりについて考え、根拠を明確にして自分の意見を持たせたい。さらに、自分の主張とは異なる立場の主張を取り上げ、それに反論することで説得力を高める文章を書き、社会に向けて発信する力を育成したいと考える。

#### (4) 実践内容

本単元に位置づける言語活動は、「C 読むこと」(2)イ「論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと」である。そこで、単元を通して課題解決をめざす言語活動を「文章や資料を読んで、人間社会の在り方を考えようー反論技法を取り入れた意見文を書くー」とした。そして、「書くこと」と「読むこと」を統合した次のパフォーマンス課題を設定した。

あなたは、沖縄県教育委員会が主催する「グローバル・リーダー育成海外研修員」に選ばれました。

このプログラムでは、海外の中高生に「未来の沖縄における観光産業と(沖縄のヤンバル地域に生息する絶滅危惧種も含めた)自然環境の今後の展望」について(英語で)発表することになっています。

「絶滅の意味」で特に注目したことも具体的に挙げながら、意見を600字~800字程度で述べなさい。

世界で主体的に活躍できる次世代の若きリーダーの出現を期待しています。

第1時では、生徒はパフォーマンス課題を共有し、具体的な学習の見通しを持った。初読の感想には、「人間は絶滅するのか?」「沖縄の動物の絶滅を防ぐために、人間ができることは何か?」などの疑問を持っていた。

第3時からは、筆者の主張と根拠を読み取った(図2)。筆者が読み手の理解を助けるために生態系の仕組みを説明していること、また、説得力を高めるために根拠の内容を詳しく書いていることを学習した。

第5時では、自分の主張とは別の主張を想定した反論技法を読み取った。自分の主張とは異なる主張に反論することで、自分の主張が独りよがりにならない、説得力を高めることができるようになることを理解した。また、反論技法を取り入れた演習にも取り組んだ。

第6時は、人間社会の在り方について深い理解を促すために知識構成型ジグソー法を取り入れた。エキスパート活動からクロストークへ展開する過程で、生物多様性や生物や生態系に、なぜ価値があるのかについて話し合い、自分なりの意見を持つことができた。

第7時からは、パフォーマンス課題に取り組み、前時で見つけた新たな課題の「人間社会の在り方と自然との関わり」について、反論技法を取り入れながら自分の意見を書いた。その後、交流する時間を取り入れ、お互いの意見を相互評価した。

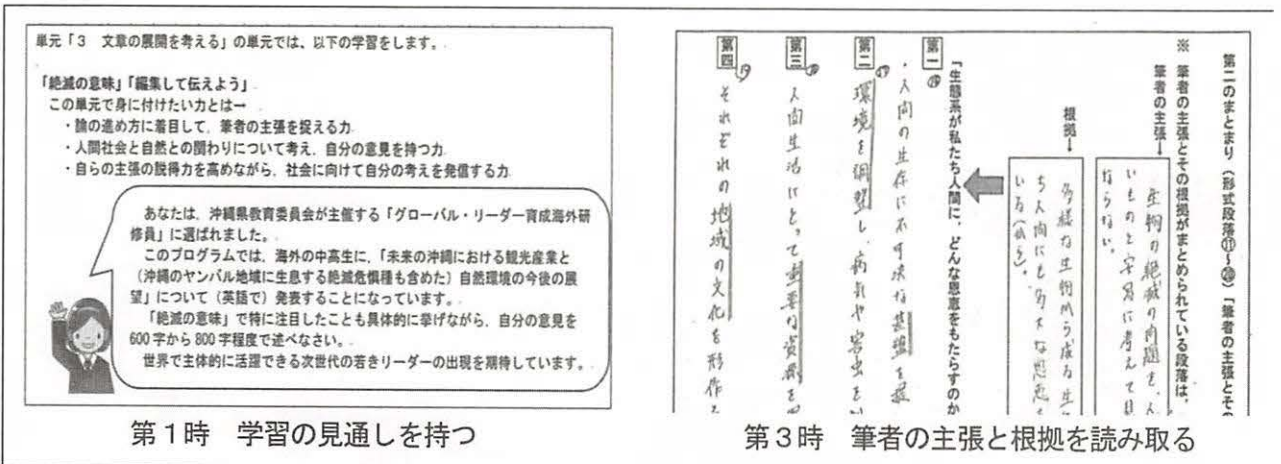


図2 本単元の学習の流れのイメージ

表3 単元の指導計画

次	時	評価規準	具体的な学習活動
一	1	関論の進め方を捉え、人間社会と自然との関わりについて自分の考えをまとめようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習目標を確認し、見通しを持つ。</li> <li>・全文を通読する。 ・初読の感想を書く。</li> <li>・文章を三つのまとまりに分ける。</li> </ul>
	2	言学術的な言葉など意味や用法を理解している。	
二	3	読筆者の主張、異なる立場の主張、それに対する筆者の反論の内容を正しく理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を捉え、異なる立場の主張を捉える。</li> <li>・説得力を高める論の進め方について考える。</li> </ul>
	4		
	5	読人間社会の在り方と生態系の維持との関係について立場を明らかにして意見をもっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性や生物や生態系に、なぜ価値があるのかについて話し合う。</li> </ul>
	6		
三	7	書自分の主張とは異なる立場の主張を取り上げ、それに反論することで説得力を高める文章を書いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反論技法を取り入れ、社会と自然との関わりについて自分の意見を書く。</li> <li>・交流してお互いの意見を評価する。</li> <li>・単元末に学習を振り返る。</li> </ul>
	8		
	9		
	10		

(5) 実践の考察

① 生徒の学習の評価 (授業前後の変容・比較)

第6時の学習の評価を「C 読むこと」の評価規準(表3の太字下線部分)を通して評価したい。

生徒Kは、学習前の「生物や生態系に、なぜ価値があるのかを説明しよう」の問いに対して、次のように記述していた。

生物がいるから生態系が成り立っていて、生物がいなくて私たち人間は生きられない。人間にとってとても大切だから。生態系と人間は共存する。人間は生態系を守る。

生徒Kは、筆者の主張を捉えながらも、人間中心の視点で生態系を捉え、人間社会の在り方については考えていない様子であった。

第6時の人間社会の在り方について深い理解を促すことを目的とした学習後には、学習前と同じ問いに対して、次のように記述が変容した(波線は筆者)。

人間は生物がいるから生きていけると思うので、生物や生態系から恩恵を受けなくても守るべき。人間社会の在り方は生物・生態系を必要としているけれど、人間にとって役に立たない動物はいなくなってもいいという考え方を改めなければならない。

生徒Kは、人間社会の在り方について考え方を見直す立場を取りながら意見を述べようとしていた。これは、【おおむね満足できる】の評価ができると考える。

その後生徒Kは、どのような人間社会の在り方がいいのか新たな課題を見だし、考えを意見文に書いた。

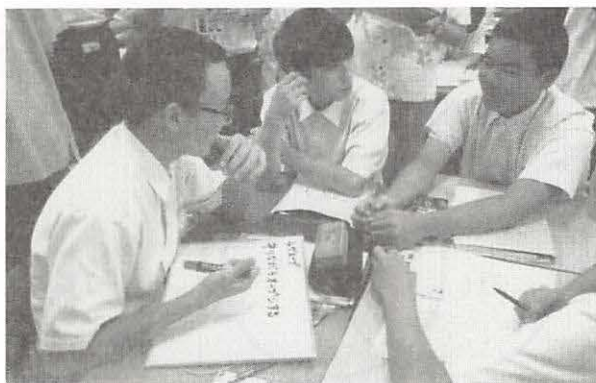
② 授業デザインの振り返り

説明的な文章を読むにあたっては、文章の内容の理解とともに、筆者の書き方の工夫を捉えて学習者の表現に活かせるような指導が必要である。

本実践では、反論技法を取り入れ、社会と自然との関わりについて自分の意見を書くというパフォーマンス課題と関連させた単元の指導計画を設定した(表3)。このような授業をデザインすることで、生徒は、「書くこと」と「読むこと」を統合した学習ができた。

③ 実践を踏まえた授業の改善点

教科書には、「絶滅してもかまわない生物もいるのではないか」という筆者の主張とは異なる主張があった。このとき、ある生徒が「正反対の意見」が「異なる主張」だと誤って捉える場面があった。反論技法を取り入れる際には、一つの主張に対して多面的・多角的な見方・考え方が捉えられるように指導していきたい。



第6時 人間社会と自然との関わりについて考える

第10時 交流してお互いの意見を評価し、振り返る

#### 4 第3学年の実践事例（その2）

##### (1) 単元名

オキナワのWA！「輪・和・対」話  
一話し合いを通して合意形成をしよう—  
学習材名「合意を形成する」（東京書籍）

##### (2) 目標

- ・対立する意見について、合意の形成を目指して考えをまとめる「議論する力」を身に付ける

##### (3) 本実践の目的

生徒の実態を見ると、対立した意見について賛成・反対の立場を取り、根拠をもって自分の主張を述べて相手の意見に勝つ「議論する力」はある。しかし、相手の意見を尊重してよりよい解決策を生み出すことには十分とはいえない課題も見られた。

そこで、本単元では、私たちが生活する地域の様々な課題に対して、お互いが納得できる解決策を提案することを目的に、「オキナワのWA！『輪・和・対』話—話し合いを通して合意形成をしよう—」を設定した。

##### (4) 実践内容

本単元では、第3学年「話す・聞く」授業の単元の指導計画（表4）を見直し、合意を形成する力を育成する学習指導を展開した。「A 話すこと・聞くこと」(1)エ「話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫」することとして、シンキングツールを取り入れた話し合い活動を行った。シンキングツールを用いることは、視覚化により情報を整理し収斂できるメリットがある。シンキングツールを活用して話し合うことで、よりよい解決に向けて、考えを広げながら相手の立場を尊重して話し合うことができる。

本実践では、合意を形成するために必要な客観的な視点を体験的に学習し、理解するために知識構成型ジグソー法を取り入れた。

エキスパート活動では、A「相違点だけではなく、共通点を探し出そう」、B「反論するだけではなく、よいところを見つけよう」、C「話し合いの軸となる視点を見つけよう」の資料（図3）を読み、エキスパート課題に取り組んだ。

ジグソー活動では、エキスパート活動の三つの視点を取り入れながらメインの問いに取り組み、合意形成された提案を班で考えた。その後、合意形成に必要なこととは何かを振り返る活動を取り入れた。

単元の終末では、身に付けた合意を形成するための「議論する力」を用いて、パフォーマンス課題に取り組んだ。

祥子 この前、久しぶりに市内の大公園に遊び行ったんだけど、ずいぶんと海外からの観光客が増えていて、とてもにぎわっていたよ。

大輔 どうやら、近隣の売店や飲食店も商売繁盛で経済的効果があるらしいよ。

祥子 でも、ごみが散乱していたり、すべり台の列にきちんと並ばなかったりした光景もあったな。もう海外からの観光客は来てほしくないな。外国人はお断りにした方がいいんじゃない？

大輔 マナーを守るように、ポスターを張って注意を促すとかは？

祥子 そんなんじゃない、効果は期待できないよ。地元の子供がのびのびと遊べるようにしないと。

大輔 でも、経済的効果は大切な視点だよ。それで、子どもがいる店は家計を支えているわけだし。お買い物してくれるお客さんが減ると困る人たちもいると思う。

問い 対立する意見の良いところを取り入れた新しい提案を考え100~150字程度で提案しなさい。

生徒は、対立する意見の良いところを取り入れ新しい提案を考えた。その後、地域の身近な話題を取り上げ、合意形成の案として、どのような提案ができるのかを問い続けながら議論して考える時間を設定した。



図3 シンキングツールのエキスパート資料とジグソー活動

表4 単元の指導計画

次	時	評価規準	具体的な学習活動
一	1 2	<b>聞</b> さまざまな観点から評価しながらスピーチを聞き、自分の考えをまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つのスピーチを聞き、違いを挙げながら評価の観点を考える。</li> <li>自分の表現に生かしたい点を考える。</li> </ul>
二	3 4 5 6	<b>話</b> 目的や相手、時間に応じて自分の経験や知識を再構成し、聞き手にわかりやすい語句を選んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や場面によって話す内容や話し方を変える必要について考える。</li> <li>スピーチの練習を行い、お互いにスピーチを評価する。</li> </ul>
三	7 8 9 10	<b>関</b> 合意を形成することに関心を持ち、合意形成の議論で新たな問いを見つけようとしている。 <b>話</b> 対立する意見の共通点や、それぞれの良いところを見つけた上で、新しい案をまとめている。 <b>言</b> 言葉の意味を正確にとらえて、語感を磨き、語彙を豊かにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活の中から多様な捉え方や考え方ができる話題を取り上げる。</li> <li>合意形成に必要な客観的視点を理解する。</li> <li>地域の様々な課題の解決案を考える。</li> <li>モニタリングを行い、質の高い対話であったかどうかを客観的にみとりながら振り返る。</li> </ul>

(5) 実践の考察

① 生徒の学習の評価（授業前後の変容・比較）

単元の学習前は、「話し合いの活動で、相手の意見を尊重して、よりよい解決策を生み出すことができますか？」の問いに対して、生徒Hは次のように答えた。

- ・自分が納得する考えや答えしか出してこなかった。
- ・多数決で決めることが多くて、勝ち負けみたいな感覚も少しあった。
- ・自分が少数意見で他の人が多数の意見の時、自信がないから多数の意見に流されることが多かった。

単元の学習後の振り返りでは、次のように考え方が変容していた。

双方の意見のいいところや欠けているところを整理し、二つの意見のいいところを組み合わせる新しい意見をつくる。必ず双方が納得しないと合意形成といえない。このとき客観的に考えたら、どっちの意見にも偏らない。

勝ち負けにこだわった議論ではなく、お互いの考えを尊重し、自分の考えと相手の考えを公平に評価しながら、よりよい解決策を考える「議論する力」が身につけており、【おおむね満足できる】と評価ができる。

② 授業デザインの振り返り

本実践では、話し合いの進め方の工夫として、シンキングツールを取り入れた話し合い活動を行った。これは、全国学力・学習状況調査の質問項目「他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う」に対して、「そう思う（65%）」と答えた本県の生徒の実態に応じて実施した指導の工夫・改善の事例である。

シンキングツールを用いることで、考えたことを他の人に視覚的にわかりやすく説明することができるようになった。また、情報が手元に残ることで、考えを整理したり、再構築しやすくなったりすることができた。シンキングツールの活用は、話し合いの進め方の工夫として効果的な働きがあったと考える。

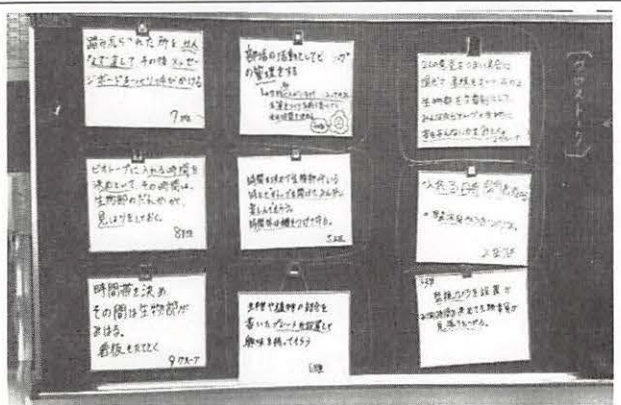
その後、地域の身近な話題を取り上げ、合意形成の案について問い続ける生徒の姿があった。

③ 実践を踏まえた授業の改善点

合意を形成する課題によっては、対立する意見双方の要素を取り入れるのが難しい場合もある。その際には、どこかに歩み寄れるところがあることを伝える指導も必要だったと考える。



ジグソー活動



合意形成の生徒解答例

## VI 成果と課題

### 1 成果

#### (1) アクティブ・ラーニングの視点を通じたカリキュラムマネジメント

本校国語科では、アクティブ・ラーニングの視点を通じたカリキュラムマネジメントを研究し、実践した。その中で、各学年を通して、単元を通して課題解決を目指す言語活動を設定し、指導事項を指導した。

次の図は、実践した授業モデル図である(図4)。

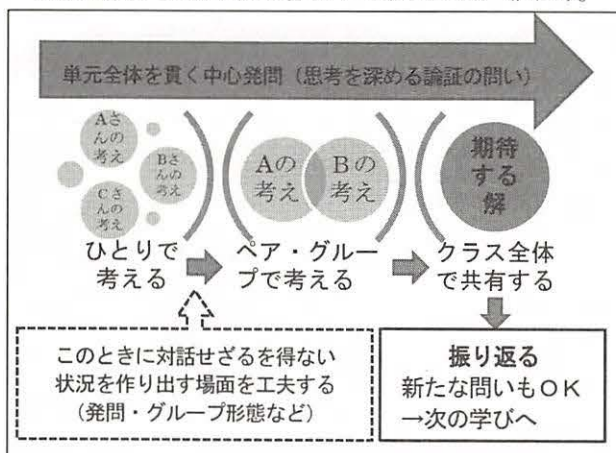


図4 アクティブ・ラーニングの視点を通じた授業モデル

単元全体を貫く中心発問は、予想される生徒からの問いをイメージして設定した。このとき、思考を深めることを目的としたので、「論証の問い」を設定するように心がけた(IV 研究内容1「新たな課題を見いだし、問い続ける生徒とは」を参照)。

「論証の問い」では、「なぜ、そう考えるのか」と根拠を求めるので、生徒は、思考の根拠となる本文の叙述を丁寧に読むようになった。また、話す・聞く、書く、読む言語活動をペア・グループの中で行うことで、期待する解に近づくことができた。そして、学びを振り返ることで、新たな問いを持つことができた。単元を通して課題解決を目指す言語活動を設定して指導することは、「問い続ける生徒」の姿の実現につながった。

しかし、このような授業モデルを毎時間、踏襲したわけではない。例えば、「ひとりで考える」活動に重点をおいた授業をデザインしたこともある。なぜなら、「ひとりで考える」活動をおろそかにすると、次の「ペア・グループで考える」活動において、積極的に自分の意見や考えを伝えることができないからである。

生徒の実態に応じて、柔軟に単元の指導計画を編成したり、組み直したりすることが重要である。

「V 実践事例」の第1学年では、単元のはじめに終末の場面の意味を企画書にまとめるパフォーマンス課題を提示したことで、終末の場面を生徒が主体的に解釈し、意味づけする必然性を生み出すことができた。また、第3次の知識構成型ジグソー法による実践の前時には、終末の場面の意味について考えるためのエキスパート資料の視点を生徒が考える時間を設けた。個人レベルで読み取りに必要な視点を考えたことで、ペア・グループで考えを深める生徒の姿を見とることができた。一連の学習を通じて、「個人」「グループ」で考えを交流することを通して、「言葉による見方・考え方」を働かせて、「語義や描写に注目して登場人物の心情や作品を読み深める」ことができたと考える。

第2学年の事例では、単元を通して3回のリライト(書く)活動によって、自分の思いや考えを深め、作者の思いに触れ共感することができた。生徒自ら主体的にことばを読み、他者や作者、自己と対話し、想像を膨らませて「書く」ことで読みを深めていた。単元終了後の生徒感想では、「3年の和歌で想像するのが楽しみ」と書いた生徒が多く見られた。その後哲学的に物事を考えるという説明文の実践を行ったが、3月の年間振り返りのコメントで、「その後〇〇ということについて何回か考えたけど、終わりがなくて楽しいです」と書いた生徒がいた。「問い」「気づき」「学び」のスパイラルを、本実践に留まらず年間を通して繰り返すことで、「言葉による見方・考え方」を働かせながら、自ら解決に向かう姿勢をはぐくみ、国語科主題である「問い続ける生徒」の育成に繋がっていると考察できる。

第3学年の事例でも、知識構成型ジグソー法を取り入れている。この学習法は、「ひとりで考える」活動から「グループで考える」活動に移る際、対話せざるを得ない状況を生み出す。事例その1では、「生物多様性や生物や生態系に、なぜ価値があるのか」というメインの問いについて、異なった3つのエキスパート資料を持ち寄って対話することで、生徒は人間社会の在り方について深く考えることができるようになった。

また、本事例は、社会と自然との関わりについて自分の意見を書くというパフォーマンス課題と関連させた単元の指導計画である。このように「読むこと」と「書くこと」を関連させることで、習得した知識や技能を活用して、新たな解決したい課題を見いだすことができる生徒の姿につながった。

## (2) アクティブ・ラーニングの視点を通じた評価

第3学年の事例では、「海外の中高生に『未来の沖縄における観光産業と（沖縄のヤンバル地域に生息する絶滅危惧種も含めた）自然環境の今後の展望について』意見を600字～800字程度で述べる」というパフォーマンス課題を単元の導入時に設定した。この課題に対して、ある生徒は単元の終末で次の文章を書いた。

### 生徒作品（下線部は授業者）

みなさんは、人間の未来だけではなく、他の生物の未来も考えたことがあるだろうか。

今の沖縄では、固有種の生物の絶滅が問題となっている。ノグチゲラを見てみよう。ノグチゲラは沖縄県の県鳥にも指定されていて、やんばるの森にしか生息していない。数を減らしている理由として、人間が島に連れてきたマングースに襲われることや、人間が捨てるゴミで急増したカラスに巣を襲われることが挙げられる。我が沖縄県の県鳥を初め、多くの固有生物が絶滅の危機に晒されている今、原因である私たちはのうのうと日々を過ごしているのだろうか。

これに対して、経済成長のためには、多少の自然破壊も仕方がないのではないかと主張する人もいる。経済成長することで地元の雇用が生まれ、人々に喜ばれることと、経済利益の一部を保全活動にまわせばよい、というのが、その根拠だ。

しかし、③生物の絶滅は不可逆的で一度絶滅してしまうと復活はできない。また、マリンスポーツや野鳥観察など自然を利用している産業も少なくはない。

例としてサンゴを利用した産業がある。サンゴの中でもアオサンゴは、珍しい青い体をしている。よって、骨董品や宝飾品、アクアリウム貿易の対象となり、乱獲され数が減った。気候変動にもとても敏感である。

このように、②私たちが産業で利用している生物たちも絶滅の危機に晒されているため、自分たちの利益だけでなく、環境についても考えねばならないのだ。

最後に、このような問題は沖縄だけでなく、日本、そして世界各地で起こっている。①自分たちの目先の利益の前に、利用させてもらっている生物たちの利益について考えるべきではないか。

この生徒のパフォーマンス作品については、次の三つの評価ができると思う。

第一に、人間社会の在り方と生態系の維持との関係について、立場を明らかにして自分の意見をもっている（下線部①）。第二に、教科書で学習した論説文「絶滅の意味」の筆者とは別の視点から生態系の価値について意見を持っている（下線部②）。第三に、自分の主張とは異なる主張に反論することで、自分の意見の主張の説得力を高めることができている（下線部③）。

単元の導入時に単元のゴールとなるパフォーマンス課題を提示して学びを進め、単元の終末で評価することで、指導と評価の一体化を図ることができた。

成果を以下にまとめる。

- ・アクティブ・ラーニングの視点を通じたカリキュラムマネジメントを行い、授業モデルを整理することができた。
- ・各学年で実践した思考力・表現力・判断力を育成するパフォーマンス課題例を領域ごとに一覧表でまとめることができた。
- ・「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める授業改善ができた。
- ・アクティブ・ラーニングの視点を通じた評価として、単元の導入時に単元のゴールとなるパフォーマンス課題を提示して学びを進め、単元の終末で評価することで、指導と評価の一体化を図ることができた。

## 2 課題

課題を以下にまとめ、次年度へ改善につなげたい。

- ・「パフォーマンス評価」の指標となるルーブリック（評価基準表）の共有を取り入れた実践が少ない。
- ・「パフォーマンス課題と評価」におけるルーブリックの具体的な作成基準について“原則”があるかどうかが見極められていない。
- ・本校国語科で研究している実践内容が、本県の生徒の課題に対応できているかどうかのみとりが十分に達成されているとはいえない。

### 〈引用文献・参考文献〉

- (1) 中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」2016年12月
- (2) 沖縄県教育委員会「学力向上推進プロジェクト」2016年12月
- (3) 野矢茂樹著『大人のための国語ゼミ』山川出版社（2017）
- (4) (9) 文部科学省「教育課程企画特別部会における論点整理について」2015年8月
- (5) 高木展郎編著『「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは』東洋館出版社（2016）
- (6) 田村知子他編著『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい（2016）
- (7) (8) (10) 西岡加名恵編著『資質・能力を育てるパフォーマンス評価』明治図書（2016）

Ⅶ 資料

表5 パフォーマンス課題例

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生向けの新聞記事を書くために「中学校生活で大切にすべきこと」について話し合おう(グループ・ディスカッション)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花子さんの意見文が説得力をもつためのアドバイスを考えよう</li> <li>・新入生に向けて学校新聞に「中学校生活で大切にすべきこと」の記事を書こう(情報発信)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『少年の日の思い出』の最後の場面に込められた意味を説明する企画書を作成し、企画部長を説得する提案をしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校6年生に『竹取物語』の読み聞かせをしよう～「石つくりの皇子」の求婚話のおもしろさを伝える音読の工夫を考える～</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「L-1 グランプリ」モニタリングでグループの「聞き」レベルを診断!</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「饅頭-世界に誇る伝統食」を読んで、「世界に誇る日本の〇〇」を紹介するための文章を書こう</li> <li>・「哲学的思考のすすめ」の論証を参考に「哲学的に」説明しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『卒業ホームラン』と『字のない葉書』を比較して「父親像」の違いを読み取ろう</li> <li>・『走れメロス』のエピソードストーリーを作ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外の中学生に「琉歌」の面白さを伝えよう</li> <li>・『平家物語』を映画化するなら、〇〇の場面でのような演技指示書を出すか検討しよう</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「S-1 グランプリ」を開催しますが、担当者が審査基準を誤って削除してしまいました。スピーチの審査基準の作成をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の中高生に「未来の沖縄における観光産業と自然環境の今後の展望」について「絶滅の意味」を例に挙げ自分の意見を書きなさい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『百科事典少女』の編集会議で物語終末の「ンゴマ」の記述が必要な理由を説明しなさい</li> <li>・『故郷』を読んで、未来の自分に手紙を書こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『おくのほそ道』から芭蕉の旅に対する思いや人生観を参考にして、「これからの私」の決意表明をしよう</li> </ul>

(東京書籍「新しい国語」)

表6 ルーブリック例

パフォーマンス課題	
パフォーマンス課題で求める解の要素・観点	期待する具体的な記述のキーワード
<p>あなたはCM作成会社の社員です。今度『少年の日の思い出』の映画化が決定し、CM作成班の班長に任命されました。4つのコマ割りのうち3つは決まったのですが、「僕」が「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった」の場面をCMの最後に当てはめたいと思います。企画部長は「僕」がチョウを盗む場面をCMの最後に採用しようとしています。最後の場面がこの作品の見所であることを、企画部長に提案するための企画書を完成させなさい。</p>	
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の場面が「僕」や「少年の日の思い出」にとっていかに重要か、情景描写や言葉の意味に注目し、複数の根拠に基づいて説明する文章を書くことができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の場面がいかに重要か、エキスパート資料に提示された視点をふまえて、表現描写や言葉の意味に注目し、根拠を示して説明することができる。</li> </ul>
Cの生徒に対する手立ての実際	
<p>①ジグソー活動やクロストークを通じて交流することで生徒自身が解に近づけるよう、考えの再構成の場を設定する。</p> <p>②補助発問によって、エーミールの喉笛に飛びかからなかった理由について考えさせる。</p> <p>③補助発問によって、「僕」にとって「チョウを収集すること」にどのような意味があったのか考えさせる。</p>	

(東京書籍「新しい国語1」ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」の場合)

少年の日の思い出 ヘルマン・ヘッセ 訳・高橋健二

学習の最後に解決したい課題

あなたはCM作成会社の社員です。今度「少年の日の思い出」の映画化が決定し、CM作成班の班長に任命されました。  
4つのコマ割りのうち3つは決まったのですが、「僕」が「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまつた」場面をCMの最後に採用したいと思っています。企画部長は「僕」が「チョウを盗む場面をCMの最後に採用しよう」としています。最後の場面がこの作品の見所であることを、企画部長に提案するための企画書を完成させなさい。

企画部長殿

企画書

この度、映画「少年の日の思い出」のコマージャル映像(以下CM)を制作するにあたって、「僕」が「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまつた」場面をCMの最後に採用していただきたく、意見を取りまとめました。

以上の理由より、「僕」が「チョウを潰してしまう場面をCMの最後に採用していただくことを提案いたします。  
(コマ割資料)

1	少年の「僕」が熱心にチョウを収集している場面
2	エーミールの「クジヤクヤママユ」を盗み、ばらばらに潰してしまつた場面
3	エーミールに「そうか、つまり君はそんなやつなんだな」と言われた場面
4	「僕」が「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまつた」場面

◇評価基準について(読む)

A	「僕」が「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまつた」場面の重要性について、作中の情景描写や言葉の意味について解 釈し、複数の根拠に基づいて説明する文章を書くことができる。
B	「僕」が「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまつた」場面の重要性について、これから学習する視点をふまえて、表現描 写や言葉の意味に注目し、根拠を明らかにして説明する文章を書くこ とができる。

◇学習計画

時	学習日	学習内容	振り返り
1	／	通読・意味調べ	
2	／	描写から「人物像」を読み取る	
3	／	「僕」の心情を分析する	
4	／	物語の構成について考える	
5	／	物語の終末について考える	
6	／	企画書を完成させる	

図5 リフレクションシートの実例 (B4サイズで配布)



三つの琉歌の中から、好きな歌を一つ選び、その原文を右側に書き写す。  
琉歌の左側に、訳や解釈を書く。

①

伊集ぬ木ぬ花や あん清らさ咲きゆり  
我ぬも伊集のこ 真白咲かな  
詠人知らず

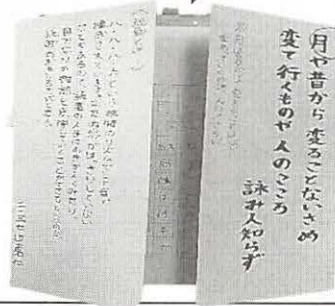
〔琉歌訳〕  
伊集ぬ木の花はあんなに美しく咲きゆり。  
私も伊集の花のように美しく咲いてや。

〔正統の詠〕  
琉歌は八十八の二十音で表される沖繩独自の歌です。  
前半の八十八は作者の見たこと後半の二十音は作者の感じたことか指かれ、  
後半の二十音は作者の切なさを表しているか指かれています。  
見たことと感じたことが作者の切なさを表しているか指かれています。また、  
詠人知らずは詠人の名前がわからぬことを表しています。

② 月や昔から 変ることないため  
変て行くものや 人のこころ  
詠人知らず

〔琉歌の魅力〕  
琉歌は、いっけん短くて、ただ読むだけでは何も感じないが、一つかえ  
から色んな場面が想像でき、奥の深い歌です。作者の「思い」を  
別の事柄などに例えて書かれていて、作者がどんな思いで書  
いたかが読み取ることによって面白さを感じることが出来ます。また、琉  
歌は、自分の好きなように想像を膨らませることができ、琉歌にこ  
められた想いの深さを感ずることが出来ます。

開くと  
こんな感じ



左の面には、それぞれが感じた琉歌の魅力についてまとめる。  
①の生徒の作品では、ジグソー学習で学んだ、「構造」や「形式」につ  
いて書かれており、②の作品には、琉歌を読む面白さが書かれている。  
どちらにも共通している点は、作者の思いを読むことでその思いに共  
感し、自分なりの読みを想像し楽しんでいるところであると言える。

この歌は、比較的読みやすく、想像しやすい  
ようであった。②の生徒のSSでは、直接  
「月」については書かれていないが、月と自分  
の距離から「彼女」と「僕」の距離、「満月」か  
ら「笑顔」に結びつけた読みと解釈できる。

②

題思い出

と	ア	深	か	と	笑	ぜ	分	も	い	ら	り	思	か	よ	た	僕	た	今	一
得	こ	が	ぶ	顔	か	か	か	う	で	遠	君	ら	い	く	め	は	遊	は	お
ち	な	顔	。 残	思	う	辰	行	く	は	て	も	た	二	息	た	具	も	、	
結	を	景	像	赤	い	て	？	離	い	い	か	人	を	だ	を	く	な		
け	君	つ	色	が	具	出	い	て	れ	な	た	だ	で	つ	一	見	さ	つ	
る	を	た	が	目	を	す	る	こ	し	た	い	。 と	か	ず	い	人	つ	か	
。	僕	う	に	の	見	の	の	な	ま	場	。 だ	一	ら	た	め	て	し		
は	。 じ	奥	っ	は	に	い	所	こ	が	緒	と	公	な	し	い				
ず	辰	み	に	め	君	事	た	へ	こ	だ	こ	一	首	圍	が	手	な		
？	？	季	る	の	は	は	嫁	か	も	と	れ	緒	は	で	ら	。			

①

題ありがとう伊集の花

私	白	守	の	白	私	は	咲	時	と	さ	最	暮	元	ル	学
の	く	ん	の	い	の	伊	い	も	と	で	近	ら	ト	を	時
明	く	の	伊	花	お	集	念	し	し	ホ	し	の	を	卒	は
日	て	の	集	だ	母	の	は	か	ら	親	親	始	一	業	新
が	い	よ	の	。 私	さ	人	は	伊	伊	ム	が	い	小	し	緑
見	く	う	花	は	私	が	そ	集	集	シ	シ	な	さ	た	の
え	さ	に	が	は	は	好	昔	の	そ	夜	ク	い	り	私	五
た	な	優	し	ま	ま	さ	か	花	花	な	こ	な	ア	は	月
。	に	し	く	る	な	ら	え	な	な	こ	な	し	ア	大	

この歌の解釈は、だいたい「あの伊集の花  
のように私も白く生まれ変わって生きよう」と  
いうものが多かったが、①の生徒は「母親」を  
伊集の花に例え、花が何を象徴しているかを考  
え、想像を膨らませてSSを書いている。

図6 パフォーマンス課題の実際（一枚リーフレット）